

# きのこ展会場MAP

## 園内のきのこ出現ポイント、を回ってみよう!

マップ内の青い丸数字は、例年、裏面写真のキノコが生えていた場所です。  
 プロムナード先案内板「ただいま生えているきのこ」と併せてご覧ください。  
 ※マップ内のきのこは、常に生えているわけではありません。

### 研修展示館

- 1F きのこの菌糸・胞子の姿
- 2F きのこアートの世界
- 3F きのこ画コンテスト「きのこコン」応募作品展示  
**〈ワークショップ〉**
  - ・きのこ版画でポストカードをつくろう
  - ・きのこの紙芝居

- 誘導フラッグ
- A** クイズラリー設置場所

### 中央広場周辺

休憩スペース・飲食店  
 マッシュルームつかみどり  
 [有料・日曜日のみ]

### プロムナード先案内板

ただいま生えているきのこ

### 教育棟

きのこ書籍・グッズ販売

入口

W4 冷温帯落葉広葉樹林



### 常設展示 「植物園のきのこの仲間」

四季を通していろいろな「きのこの仲間」を観察できるコーナーです。

### 植物園からのお願い



とらない!



植栽区への  
立入禁止



ハチに注意

### プロムナード先 (屋外テント下)

野生きのこ・栽培きのこの展示

## クイズラリー

会場MAPの マークをまわってクイズにチャレンジしよう! 全問挑戦者には、オリジナルポストカードをプレゼント。交換場所:教育棟

番号	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	<b>D</b>	<b>E</b>
答え					



1 タマゴタケ

2 ニガクリタケ

3 ノウタケ

4 マントカラカサタケ

5 コフキサルノコシカケ

## きのこQ&A

きのこやその他の菌類について、よく挙げられる質問をまとめました。写真のきのこは、表面の会場マップの数字と照らし合わせてご覧ください。

Q1

### 展示されているきのこはどこから採ってきたの？

ほとんどが身近な場所からです。大半は植物園から半径10キロ圏内。植物園を舞台にした大規模なきのこ調査も進行中です。その他にも日本全国の協力者から、たくさんのきのこを送っていただきました。

⇒詳しくは「プロムナード先(屋外テント下)」で！

Q2

### 毒きのこはさわっても大丈夫？

大丈夫です。世界で唯一「カエンタケ」というきのこだけは、さわるだけで皮膚がかぶれることが知られていますが、その他のきのこは猛毒菌を含め、さわるだけでは全く問題ありません。このコーナーでは匂いを嗅いだり、触ったりしながらたくさんのきのこを楽しんでください。ただしきのこを触るときは優しく、そして触った後は元に戻してください。汚れているので手を洗うのも忘れずに！

⇒詳しくは「プロムナード先(屋外テント下)」で！

Q3

### 実際に生えている状態のきのこは見れないの？

筑波実験植物園には年間を通して多様なきのこが発生します。どんな時期でも植物園を一周すれば、軽く30種を超えるきのこを見ることができるようでしょう。園内全体がみどころですが、特におススメなのは「冷温帯落葉広葉樹林(W4)」。

タイミングが良ければ大量のタマゴタケを見ることができます。⇒詳しくは「プロムナード先案内板」で！

案内板の「ただいま生えているきのこ」に書かれた情報を見逃さないで！

Q4

### きのこのアート展示もあるって本当？

はい。「きのこコン(きのこ画コンテスト)」応募作品展では、入選作品だけでなく、多数の力作が展示されています。この中から来年のきのこ展のポスターデザインが選ばれるかも!? また、きのこを生き生きと表現した木版画作品、実際のきのこの質感を生かした「押しきのこ」作品、きのこをモチーフにした水彩画やポエムなど、多彩な「きのこアート」作品がみなさんを待っています！

⇒詳しくは「研修展示館2Fおよび3F」で！

Q5

### 菌糸がきのこの本体というけど、根っこみたいなものでしょ？

たしかに、きのこの子実体(しじつたい)の根元から菌糸が伸びるので、根っこと同じだと思われがちです。でも、菌糸を植物で例えるなら、根っこでもあり、幹でもあり、枝でもあり葉っぱでもある、と言えます。リンゴの木で例えるなら、リンゴの実だけが地面の上に生えて、残り全てが地面の下に埋まっている、という感じでしょう。突然何も無いところから生えているように見えるきのこですが、地面の下には多種多様なきのこの菌糸がうじゃうじゃ伸びている状態なのかもしれません。そして、この菌糸が広がっている範囲を個体の大きさと考えると、地上で一番大きい生き物はきのこかもしれないのです！

⇒詳しくは「研修展示館1F」で！

Q6

### きのこの孢子って、つまりタネ？

孢子とタネ(種)は異なります。その違いはいくつもありますが、菌類の孢子の特徴のひとつは、そのサイズ。ゴマは小さいタネかもしれませんが、それでも長さは1ミリ程度。一方で多くの菌類の孢子はその100分の1(=10ミクロン)程度しかないのです。これだけ小さくても、きのこの子実体からは大量の孢子が放出されるので、その様子を肉眼で見ることでもあります。実は巨大な菌糸と、とっても微小な孢子。その組み合わせがきのこの魅力のひとつかもしれません。⇒詳しくは「研修展示館1F」で！

6 エリマキツチグリ

7 アイバシロハツ

8 ヒイロタケ

9 カワラタケ

10 ミドリシギタケ

